

九州情報大学学術・教育研究所報

第3号 2020年3月

◆令和元年度学術・教育研究所センター活動・共同研究報告

「令和」という新しい時代を迎えて、本学の教育研究活動も装いを新たにすることになった。いままでの学術研究所は『学術・教育研究所』に名称を変更し、その活動は(1)学術研究部門、(2)教育学習部門、(3)論集編集部門に整理されて、全部で6つのセンターと2つの小委員会が設けられた。

このような組織の再編成によって、経営情報分野の学術的研究をさらに推し進めるとともに、多様化する学生のニーズになおいっそう応えていくことが今後も研究所に課せられた任務である。

以下に、各センターのそれぞれのセンター長による令和元年度の活動報告の概要を紹介することにした。

○各センター活動報告

・経営情報センター センター長 遠藤真紀教授

平成22年に小郡キャンパスのインキュベート室が閉鎖となり、平成23年からの活動は公的機関等が主催するセミナー事業等への「協賛」「共催」などの連携事業が中心となっている。この活動が定着しつつあるが、開催日程や回数及び内容等は相手方の事業計画や予算等に左右される傾向にある。(昨年同様)

- ・今年度は、福岡商工会議所との連携が多く、各種事業(セミナー等)を行った。
- ・中小企業・ベンチャー等の支援団体である福岡市や中小企業基盤整備機構等との連携事業(企画・開催)をもっと模索する必要がある。なお各機関と良好なコミュニケーションは継続している。来年度以降も活動目標として連携を継続したい。今後も、多様な事業(経営安定化特別相談、経営支援相談、インキュベート施設入居審査、ビジネスプラン総合相談会等々)への参加や連携を目指すべきと考えている。(昨年同様)
- ・中小企業等認定支援機関の認定(経営革新支援実績がなかったため)は進まなかった。(昨年同様)

・国際交流センター センター長 全 彰煥教授

国際交流センターは、太宰府市国際交流協会のメンバーとして、同協会と連携しながら地域の国際交流に積極的に貢献する活動を行っている。たとえば今年度は、同協会が主催するフレンズベル倶楽部交流会(6/22)に本学留学生を派遣し、留学生や在住外国人の方が作った母国の料理を囲みながら、民族衣装パフォーマンスを楽しんだり、レクリエーションをとおして太宰府市民との交流を深めた。また、同じく同協会が主宰するイベント「日本文化体験講座」(8/17)に本学留学生と別科留学生を派遣し、そうめん流しや令和発祥の地の史跡散策などを通して、古都大宰府の歴史を見聞するとともに、太宰府市民との異文化間交流を体験した。このほかに太宰府市立西小学校にも留学生を派遣し、地域の子供たちに母国の文化や習慣を伝えるとともに、交流会(12/14)を行った。さらに、今年度は太宰府市議会や市長と留学生との意見交流会(11/19、12/14)に出席するという貴重な機会を得ることができた。

また、「留学生フォーラムー日本の就活スタイルを学ぶ」(2/1)に留学生を出席させ、日本企業の外国人採用現況について情報収集を行ったほか、日本における就職活動のマナーなどを学んだ。

国際交流センターは、留学生の日本語補習教育に関して中核的役割を担っており、外国人留学生や DDP（ダブルディグリープログラム）編入学生に対する特別のカリキュラムを編成して、個々の日本語能力に応じた授業を行っている。

・基礎学習支援センター センター長 橋爪善光准教授

今年度より新設された基礎学習支援センターの目的は学生の学習支援をすることにある。そこで今年度前期においてまず、本学においてコンピュータ関連の問題解決や IT パスポート、簿記検定の学習支援を行っている PC クリニックの利用状況の調査を行った。その後後期から学習支援室の試験的運用を実施した。2019 年前期における本学 PC クリニックの利用者数を時限毎に調査した。その結果、必修授業前後で利用者数が増えるなどの関係性は見られず、各曜日とも 5 限の利用者が少なく、週の前半である月曜日から水曜日の利用者が多い事が分かった。

後期にはいり、学習相談室の試験運用を開始した。場所については学生が相談に行く部署として既に認知されている PC クリニックの中の情報処理室内会議室に設置した。時間は 1 年生の必修授業が週の前半である月曜日 3 限にあった為、月曜日 14:30 から 16:30 の 2 時間、全 10 回開室した。相談員としては情報ネットワーク学科 3 年生の 2 名が交代で勤務した。その結果のべ 6 名の利用者が来た。しかしこの 6 名は相談員同士またはその友人であり、新規の相談件数は実質 0 件であった。これには 2 つの原因が考えられる。①学習相談室が認知されていない。②相談室の場所が分かり難く入り難い。それらの原因を解決するために来期、①については前期のオリエンテーションでチラシを配布することで認知度を上げようと考えている。②については PC クリニックの奥に行かず手前で入れるように PC クリニック内の模様替えを行うことで入りやすい場所にしようと考えている。

・地域情報センター センター長 秋吉 浩志准教授

はじめに

今年度で地域情報センターも開設され 8 年を終えた。(2012 年開設) この 7 年間、甕島での「アイランドキャンパス」の取り組みと、地元太宰府の水城小学校「パソコンクラブ」への学生サポートの派遣の二つを柱として、取り組みを推進している。センターとしては、地域交流・地域貢献に本学の人的・知的資源を活用しつつ、そこに参加する学生がそれらの活動を通して諸能力の向上を図るという目的のもと、これらの事業に取り組んでいる。また、今年度からセンター長も替わり、新しく地域の情報発信事業「だざいふなび」(太宰府市商工会)の会員向け情報発信サポート事業が加わり、さらには「だざいふなび」に本学も会員に加わり、さらに情報発信の教育ならびに広報としての充実を計ることができるようになった。

ここでは、前述の三つの柱についてその概要をまとめる。

1. 甕島「アイランドキャンパス」の取り組み

鹿児島県薩摩川内市・甕島での「アイランドキャンパス」事業は、2012 年度から今回で 8 年目となった。この 8 年で延べ 88 名の学生が参加している。今年度の参加者は学生 9 名、教員 2 名であった。

今年度の甑島での活動

- 9月27日(金) 出発(午後)～鹿児島県薩摩川内市樋脇泊
9月28日(土) 午前 串木野新港からフェリーにて下甑島へ
午後 鹿島港着 ～ 島内観光(1)
吹奏楽ミニ演奏会(西山地区コミュニティーセンター)
9月29日(日) 瀬々野浦・西山地区運動会に参加
・相撲部特製ちゃんこ鍋を提供
・吹奏楽部のミニコンサート
西山地区との交流会
9月30日(月) 午前 甑島観光
午後 長浜港からフェリーにて帰途

これらの学生たちによる甑島での交流を通して、本学における甑島に対する認知度と興味関心は年々高まってきており、もはや定着している。また、2013年からは学園祭(11月)において平田毅ゼミ学生を中心に「甑島フェア」(甑島のキビナゴ・タカエビの揚げ物をイートインで提供、併せて甑島特産品も販売)を開催してきている。

私たちの甑島をフィールドとした取り組みは、甑島島内での交流実践を軸とした「アイランドキャンパス」を核としながらも、島外(学園祭その他)でも“勝手に甑島を宣伝・応援”するものとして発展してきた。そうした経緯のなかで、2015年には「KIIS こしきアイランドプロジェクト」と命名し、“甑島”を主題としたさまざまな学生主体の活動を展開している。

現在、本学および平田毅ゼミでは、「こしきアイランドプロジェクト」の事業として

- ① 甑島での交流実践の展開(「アイランドキャンパス」): 2012年～ ※相撲部・吹奏楽部と連携して推進
- ② 学園祭「甑島フェア」の展開 : 2013年～
- ③ 甑島の新しい特産品の発掘、および生産者・開発者との交流 : 2017年～
- ④ 「九州情報大学 学生プロデュース「甑島ツアー」」の企画・実行 : 2019年

を4つの柱として、その活動の多角的な展開を図っている。①については2012年から、②③は翌2013年から、そして、今年度には初めて④を実施している。

昨年に引き続き今年度も、鹿児島県離島振興協議会からの助成を受けられなかったため、センター予算のみでの実施となった。実施期間を昨年度までの4泊5日から3泊4日と縮小することによって、学生負担額は多少減額できたものの、学生の参加費の増額が強いられたのは心苦しかった。

活動期間が1泊短縮されたことから、昨年まで参加していた鹿島小学校運動会への参加は断念せざるをえなかった。29日の西山地区運動会への参加のみに限定して参加交流を図った。瀬々野浦・西山地区との交流は今回で7年目となる。西山小学校が閉校となった翌年から、西山地区主催としてはじまった地域の運動会に本学はそのスタートから毎年参加させて頂いていることになる。こうした累年の交流によって、本学学生の運動会参加はもはや恒例となっている。また、複数年にわたり参加する学生もいることから、運動会後の交流会も盛況になってきており、地域住民の方々が本学学生との絆も年々深まってきている。

そうしたなか、今年度は、平田ゼミを中心とした学生4名による甑島へのツアー企画も実施された。「甑島の“ひとなつ”を感じる旅」と名付けられたこの企画は、2019年8月に実施され、学生たちは企画を練り、立案するために何度か島を訪れ、現地の旅行社・こしきツアーズとのコラボレーションとして、この旅行を立案し、実施までこぎつけた。ツアー参加者は9名だったが、参加者にとっては、島民との交流、本学学生との交流も果たされ、満足度の高いものとなった。これらの背景には、8年にわたるこれまでの甑島との繋がりを礎があったことが、大きく寄与していると考えている。

本学の甑島を舞台とした取り組みは、「アイランドキャンパス」にとどまらずこうした「KIIS こしきアイランドプロジェクト」として発展してきている。それは、学術的なものというよりも実践的なものである。学生達が甑島をどのように受け容れ、彼ら/彼女らが甑島で何を為すかに掛かっている。一方、島の人たちが我々の実践をどのように評価してくれるかに掛かっている。

私たちはこの島を舞台に今後、何をするのか、何がしたいのか、これからも模索の日々は続いていく。

2. 水城小学校「パソコンクラブ」へのサポート学生の派遣

太宰府市立水城小学校の「パソコンクラブ」（月曜日 6 時間目）への学生サポーターの派遣は、太宰府市教育委員会生涯学習課（当時）の養成により 2013 年から実施しており、今年度で経 6 年となった。

初年度は、小学校・本学とも児童支援のあり方をめぐって模索の状態であったが、3 年目から参加学生達が立案・実施の主体となってクラブ時間の運営を任されるようになった。それに伴って、学生の参画主体としての自覚も育つようになってきたように思う。

この事業は、生涯学習センターと連携した事業でもある。同センターの人材バンク登録学生に依頼して毎回学生を派遣している。その際、教職課程履修者に重点的に声をかけ、彼らの教育実習の事前事後学習としての意味も持たせるようにしてきた。

今年度サポーターとして派遣された学生は延べ 16 人（8 回計画中 7 回派遣、1 回中止：新型コロナ肺炎ウィルスの影響）。活動内容は、パソコン教室の小学校向け学習ソフト「ジャストスマイル」を活用した活動である。全体進行をする学生と、児童のつまづきをサポートする学生とに役割を分担し、児童一人ひとりに寄り添うサポートを行っている。

サポート学生の確保と世代交代の円滑化と、活動内容の充実・創意工夫が今後の課題である。

また、現在担当していた水城小学校の顧問が退職となり、現在来年度に向けての引継ぎを行っている。

日程	活動内容	児童数	学生数	日程	活動内容	児童数	学生数
1 6/10	カレンダー作り	21	3	7 12/16	年賀状作り	22	2
2 7/8	カレンダー作り	22	2	8 2/17	年賀状印刷・まとめ	22	2
3 9/9	カレンダー作り	23	2	9 3/9	中止		
4 10/21	カレンダー作り	23	2				
5 11/25	ポストカード作り	22	2		延べ合計		16

3. 太宰府市商工会主管ポータルサイト「だざいふなび」へのサポート学生の派遣

本年度 10 月より太宰府市商工会議所主催、太宰府観光サイト「だざいふなび」に参加している店舗や企業の情報発信のサポートを学生主体になって行った。（写真、動画、文章のアップロード作業、ならびに SNS 情報発信サポートなど）

毎月 3 回程度、太宰府市商工会議所での「セミナー型サポート」、「店舗訪問型のサポート」を行った。そのたび、参加学生のスキルアンケート（実際サポートを行ったときの問題点や学生がどのように対応したのかなど）を取り、そして参加店舗のサポートを受けた経営者や社員などにもアンケートを行い、感想などもいただいた。その結果を来年度以降の活動に反映させたい。

今回は、地域情報センター予算から大学の「だざいふなび」サイトへの参加予算を計上、実施した。

（なお学生アルバイトの予算は、秋吉申請「教育改革事業申請書（学長裁量分）2019 年」にて歳出した。）

今後の課題としては、サポート学生の確保であるが、積極的に学生へのアピールも行っていきたい。

4. まとめ

上記活動は新年度当初の計画通り実施できた。

これからもその活動を継続的に行い、上記活動を含め地域情報センターの諸活動を積極的に情報発信していきたい。（大学／学生）

その中心的な場として、Facebook ページ等の SNS も有効に活用していきたい。

・ 生涯学習センター センター長 平田 毅教授

生涯学習センターでは生涯学習推進のため、広く地域のニーズに即した各種公開講座や講演会などの企画・開催を通して、本学の研究・教育の質的な向上を図るとともに、本学が蓄積する研究・教育の成果を幅広く地域の教育文化の発展向上のために還元し、社会貢献に期することが主な目的である。

今年度も昨年度の活動を踏襲し、公開講座を中心とした取り組みおよび地域情報センターと連携した本学学生の派遣を行った。

1. 公開講座の企画・開催

2019年度は、12講座の開催を計画したが、語学系の2講座の受講申込がなかったため、情報系の9講座、法律系1講座を12日にわたって開催した。受講者総数は86名であった。表1がその詳細である。

また、本学の情報系の公開講座は、積年にわたって本学学生が講師を務めてきた。またほぼすべての講座において、学生が受講生のサポートや講師の補助を担当してきた。情報系の講座の場合、講師担当の学生は、講座のテキストを自ら作成し、そのテキストを使用しサポーターの学生とともに、講座の運営に当たる。これは本学の公開講座の独自の特徴であるといえる。情報系パソコン講座の場合、受講生1~2名に対して1名の学生サポーターが付いて、随時懇切丁寧な支援を行うため、受講生の理解も円滑に行われる。

こうした要因からか、本学の情報系講座の評判は非常に高い。受講生の概ねが講座に満足していることが毎年、講座後のアンケートから窺える。

こうした学生サポート体制を保持するため、公開講座運営にあたっては、学生人材バンクを設置し、5月期に学生に対して募集を行ってきた。今年度の登録学生は20名である。

しかし、近年その学生人材確保が困難になってきている。全体の学生数が減少してきたことにより、同一学生が繰り返し講師・サポーターを務めなくてはならない場合が増えてきた。というよりも、それぞれの公開講座に講師・サポーターをお願いする際に、限られた少人数の学生に対して依頼せざるを得ない場合が増えてきている。しかも、下級生の場合、講座開催時間と履修授業が重なっていることも多く、自ずと上級生(4年生)に頼らざるをえなくなり、講師・サポーターの世代交代がスムーズに運ばない場合も増えてきている。

本学の公開講座は、情報系を中心として、本学学生の知識技能の定着化やスキルアップ、キャリア形成に寄与している部分も多いため、学生人材の養成は大きな課題の一つである。

一方、本学の教員が講師を務める公開講座については、今年は法律系の一つの講座のみが開催されたただけであった。「本学が蓄積する研究・教育の成果を幅広く地域の教育文化の発展向上のために還元」するためにも、本学教員スタッフによる公開講座の充実もまた、本学が抱える大きな課題であると考えられる。

表 1 2019 年度公開講座の実績

種別	講座名	開催日		講座名	受講料 (円) 含テキスト代	受講者数	講師	学生 アルバイト 人数
情報	はじめてのパソコン① ~基本操作編	9月3日	火	10:00-12:00	①のみ 1000 ①~⑥5000	9	学生	6
	はじめてのパソコン② ~インターネット編	9月3日	火	13:00-15:00	②のみ 1000 ①~⑥5000	10	学生	7
	はじめてのパソコン③ ~ワード前編	9月6日	金	10:00-12:00	③のみ 1000 ①~⑥5000	12	学生	8
	はじめてのパソコン④ ~エクセル前編	9月6日	金	13:00-15:00	④のみ 1000 ①~⑥5000	14	学生	8
	はじめてのパソコン⑤ ~ワード後編	9月10日	火	10:00-12:00	⑤のみ 1000 ①~⑥5000	12	学生	6
	はじめてのパソコン⑥ ~エクセル後編	9月10日	火	13:00-15:00	⑥のみ 1000 ①~⑥5000	14	学生	9
語学	ハンゲル講座(グルメ編) ①	9月4日	水	10:00-12:00	500	0	教員	-
	ハンゲル講座(ドラマ編) ②	9月11日	水	10:00-12:00	500	0	教員	-
法	個人情報保護と法	10月23日	木	13:00-15:00	500	5	教員	-
情報	ロボットを動かそう!!	11月3日	日	10:00-12:00	500	3	教員	3
	ワードとエクセルで年賀状を作ろう!!	11月12日	火	10:00-12:00	2,500	6	学生	4
		11月14日	木	10:00-12:00			学生	6
		11月19日	火	10:00-12:00			学生	3
はじめてのデジタルカメラ	2月5日	水	12:30-15:30	1,000	1	学生	2	

2. 学生サポーターの地域への派遣

生涯学習センターの学生人材バンクに登録された学生は、公開講座だけでなく、地域情報センターのいくつかの事業にも、その人材を派遣してきた。

太宰府市立水城小学校のパソコンクラブ、並びに甬島の「アイランドキャンパス」事業への派遣がそれに当たる。(詳細は、地域情報センターの報告を参照のこと)

甬島の「アイランドキャンパス」事業については、甬島の西山地区の運動会へ本学学生が参加し交流親睦を図るにあたり、生涯学習センター人材バンクに登録された陸上競技部に所属する学生数名を人材として派遣した。具体的には、運動会での「準備運動」「整理運動」の場面におけるストレッチ講座の開催である。2017年から今年で3年目になる試みである。(昨年は、台風襲来により運動会が中止になりその活動は行わなかったが…)

生涯学習センターとしては、いくつかの課題を抱えてはいるものの、来年度も学生講師・サポーターによる公開講座、および学生地域等への派遣の取り組みを中心に事業を継続・発展していく。ただし、地域や受講生のニーズと本学学生・教職員のマンパワーに合わせた内容の見直しを行う必要も生ずるかを感じている。

いずれにしても、公開講座を中心に、今後も地域貢献や社会貢献に少しでも期することを目指していきたい。

◆原稿募集

教員各位の教育・研究活動に関する原稿を募集します。たとえば教育・研究報告、学会報告、書評、文献紹介、翻訳などです。『研究論集』に掲載するほどの分量はないが、論文執筆のための準備作業として書き留めておきたいこと、日頃の教育・研究に関連して思うことなどでも結構です。ただし『研究論集』との違いを明確にするため論文は掲載しません。また原稿の学術的水準について一定の配慮をしてください（引用ルール・モラルの厳守、参考文献の明記。レジュメやパワーポイント資料にかたよったものは掲載しません）。詳細は学術・教育研究所までお問い合わせください。

九州情報大学学術・教育研究所報 第3号

発行日 令和2年（2020年）3月31日

発行所 九州情報大学学術・教育研究所報編集小委員会

〒818-0117 福岡県太宰府市宰府六丁目3-1

TEL 092-928-4000

※掲載された原稿の著作権は本学に帰属します。